

公共施設等適正配置基本計画に関するアンケート調査結果 【検討委員会資料（確定版）】

【調査概要】

市民アンケート	
調査目的	公共施設等適正配置基本計画の策定にあたり、広く市民の意見をうかがい、計画に反映していくことを目的として実施
調査対象	無作為に抽出した 16 歳以上の市民 2,000 人
調査方法	郵便による発送・回収
調査時期	平成 28 年 2 月 15 日発送、2 月 29 日回収締切
回収状況	2 月 29 日までの回収数 624 票（回収率 31.2%）

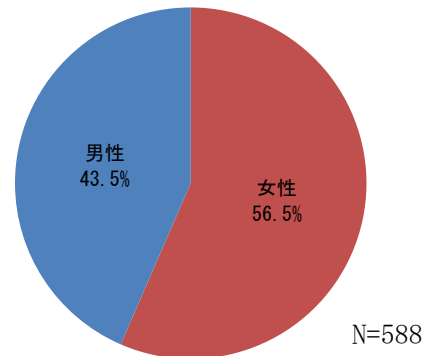
※アンケート調査結果は全て、無回答を除いて集計している。

※「N=（アンケートの回答者数）」としている。

【属性】

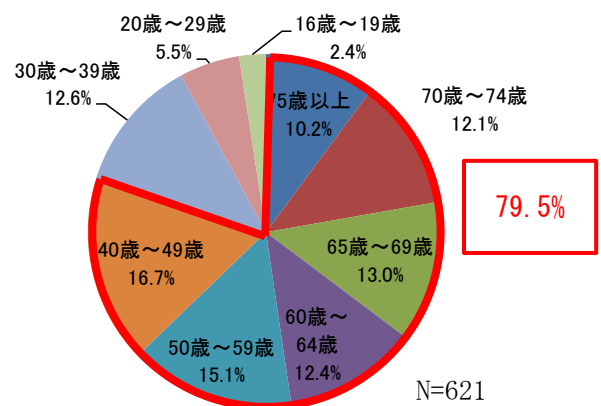
<性別>

回答者の性別割合は「女性」が 56.5%、「男性」が 43.5%と「女性」の方が高い。



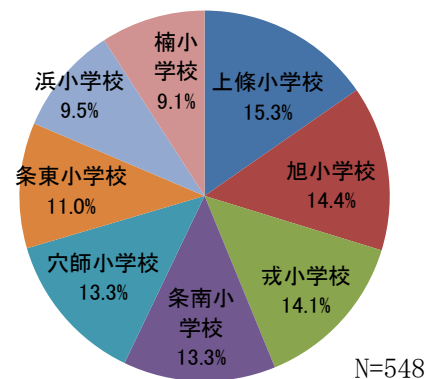
<年齢>

回答者の年齢別割合は「40 歳～49 歳」が最も高く 16.7%、次いで「50 歳～59 歳」が 15.1%、「65 歳～69 歳」が 13.0%である。40 歳～74 歳が 69.3%、40 歳以上が 79.5%と高率になっている。



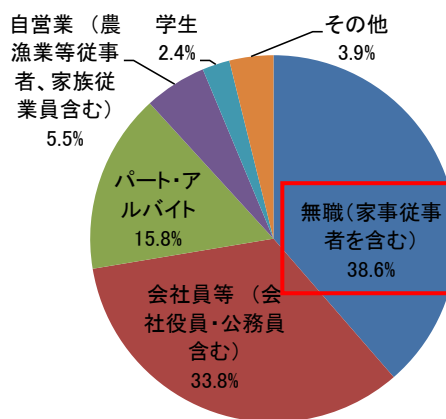
<住まい>

回答者の小学校区別割合は「上條小学校」地区が最も高く 15.3%、次いで「旭小学校」地区が 14.4%、「戎小学校」地区が 14.1%である。



<職業>

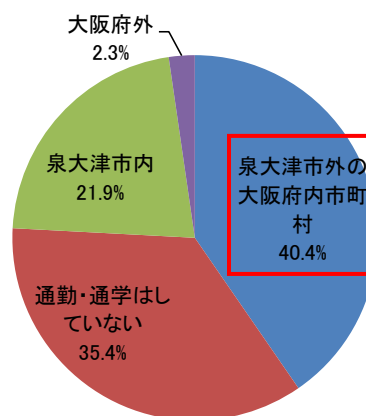
回答者の職業別割合は「無職（家事従事者を含む）」が最も高く 38.6%、次いで「会社員等（会社役員・公務員含む）」が 33.8%、「パート・アルバイト」が 15.8%である。



N=619

<通勤・通学先>

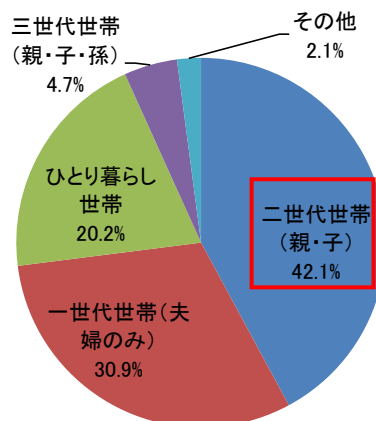
回答者の通勤・通学先別割合は「泉大津市外の大阪府内市町村」が最も高く 40.4%、次いで「通勤・通学はしていない」が 35.4%、「泉大津市内」が 21.9%である。



N=567

<家族構成>

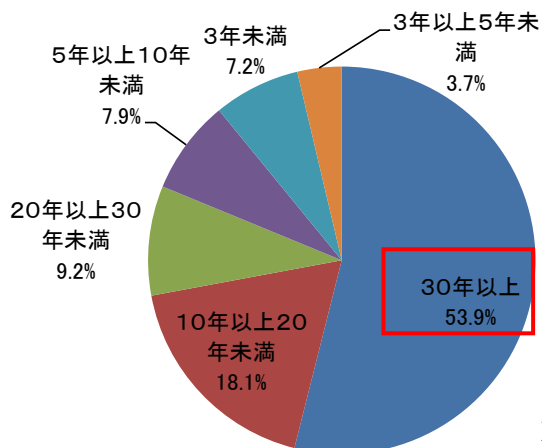
回答者の家族構成別割合は「二世帯世帯（親・子）」が最も高く 42.1%、次いで「一世帯世帯（夫婦のみ）」が 30.9%、「ひとり暮らし世帯」が 20.2%である。



N=622

<泉大津市居住歴>

回答者の泉大津市居住歴別割合は「30年以上」が最も高く 53.9%と過半数を占め、次いで「10年以上20年未満」が 18.1%、「20年以上30年未満」が 9.2%である。



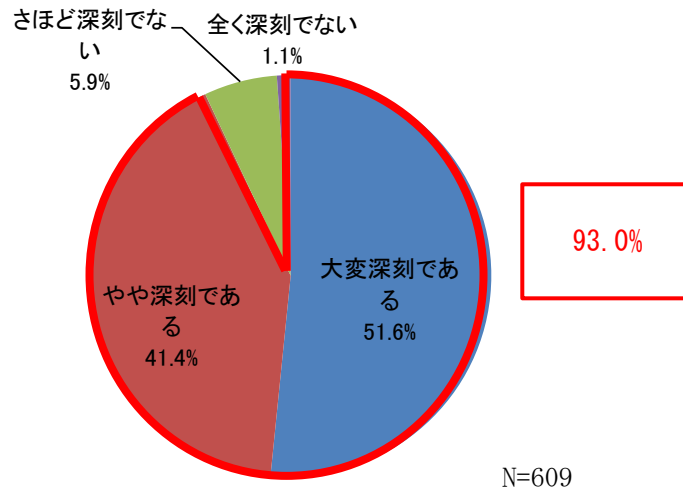
N=623

【泉大津市の現状について】

問2

本市の将来推計人口は、減少するとともに、少子高齢化が一層進展すると予想されますが、このことをどう思いますか？ <1つに○印>

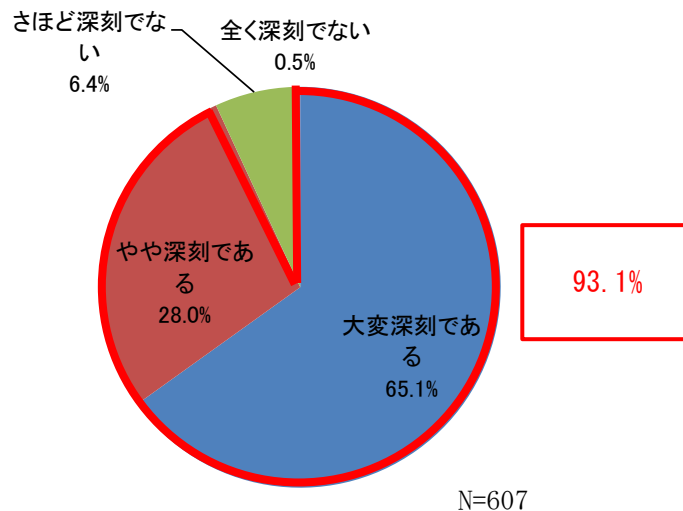
泉大津市の将来推計人口が減少するとともに少子高齢化が一層進展する事について、「大変深刻である」と回答した人が51.6%と過半数を占め、次いで「やや深刻である」と回答した人が41.4%と93.0%の人が「深刻である」と感じている。



問3

本市の公共施設についての多くが建築後30年以上経過し、老朽化が進行しています。今後、集中して建替時期を迎える事となり、将来の整備費用が30年間で約392億円(1年あたり約13.1億円)という試算結果となっていますが、この事についてどう思いますか？ <1つに○印>

泉大津市の公共施設の将来整備費用が30年間で約392億円かかる事について、「大変深刻である」と回答した人が最も高く、65.1%、次いで「やや深刻である」と回答した人が28.0%と93.1%が「深刻である」と感じている。

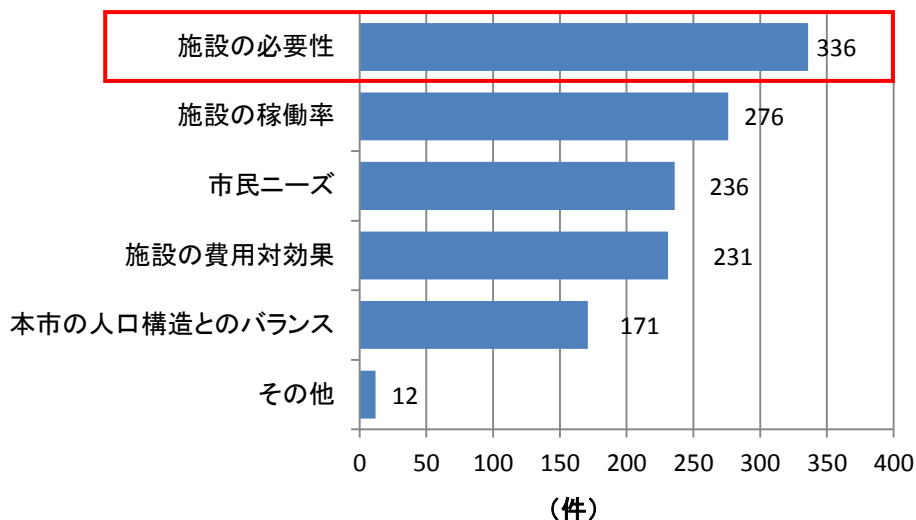


【複合化・多機能化についての現状認識について】

問4

本市では、平成26年度に公共施設適正配置基本方針を策定し、公共施設総量の縮減に向けて、施設の複合化・多機能化を進めるとしてありますが、どの点に力を注ぐべきだと思いますか？ <あてはまるものに○印（いくつでも）>

複合化・多機能化を進めるに際し、力を注ぐべき視点として、「施設の必要性」が最も多く336件、次いで「施設の稼働率」が276件、「市民ニーズ」が236件であった。次の「施設の費用対効果」の231件までが、多くの回答を得た選択肢であった。

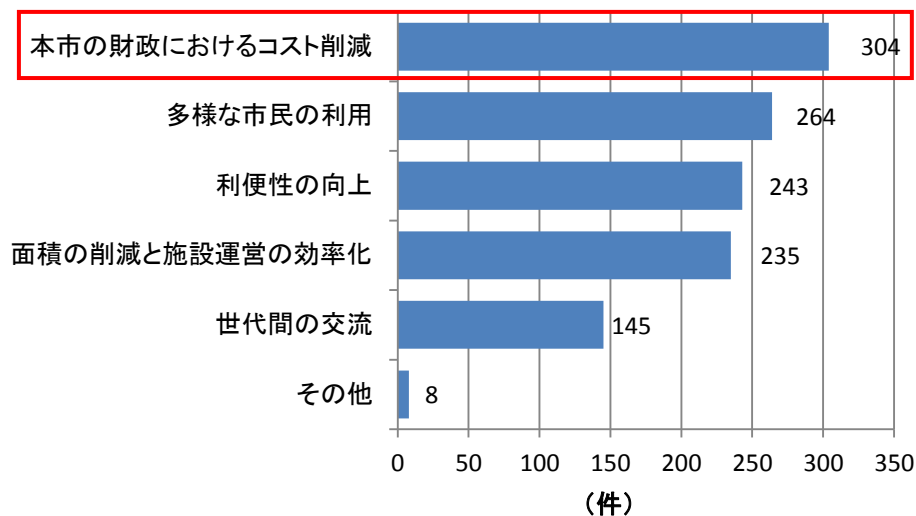


N=605

問5

施設の複合化・多機能化で、どのような効果が見込めるとお考えですか？ <あてはまるものに○印（いくつでも）>

施設の複合化・多機能化による効果として、「本市の財政におけるコスト削減」が304件で最も多く、次いで「多様な市民の利用」が264件、次いで「利便性の向上」が243件であった。次の「面積の削減と施設運営の効率化」の235件までが、多くの回答を得た選択肢であった。

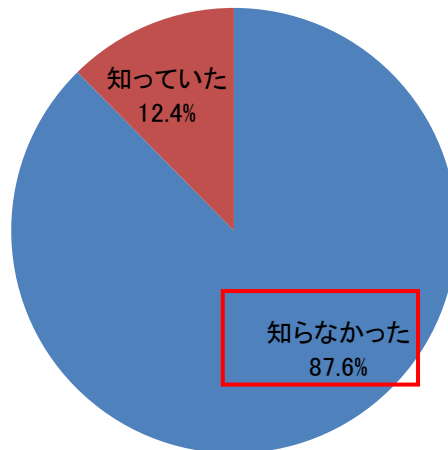


N=608

【学校教育施設の複合化・多機能化について】

問6 別紙「泉大津市の取組み」8ページの文部科学省の取組み（複合化・多機能化）について知っていましたか？ <1つに○印>

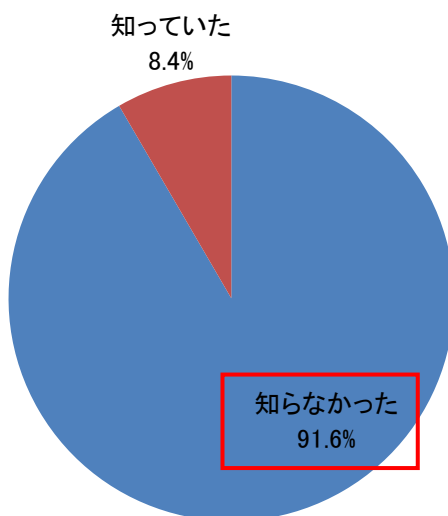
文部科学省の取組みに関する認知度は、「知らなかった」が87.6%、「知っていた」が12.4%と「知らなかった」と回答した人の割合の方が高い。



N=603

問7 別紙「泉大津市の取組み」8ページの泉大津市の取組み（リブレ EBISU）について知っていましたか？ <1つに○印>

泉大津市の取組みに関する認知度は、「知らなかった」が91.6%、「知っていた」が8.4%と「知らなかった」と回答した人の割合の方が高い。

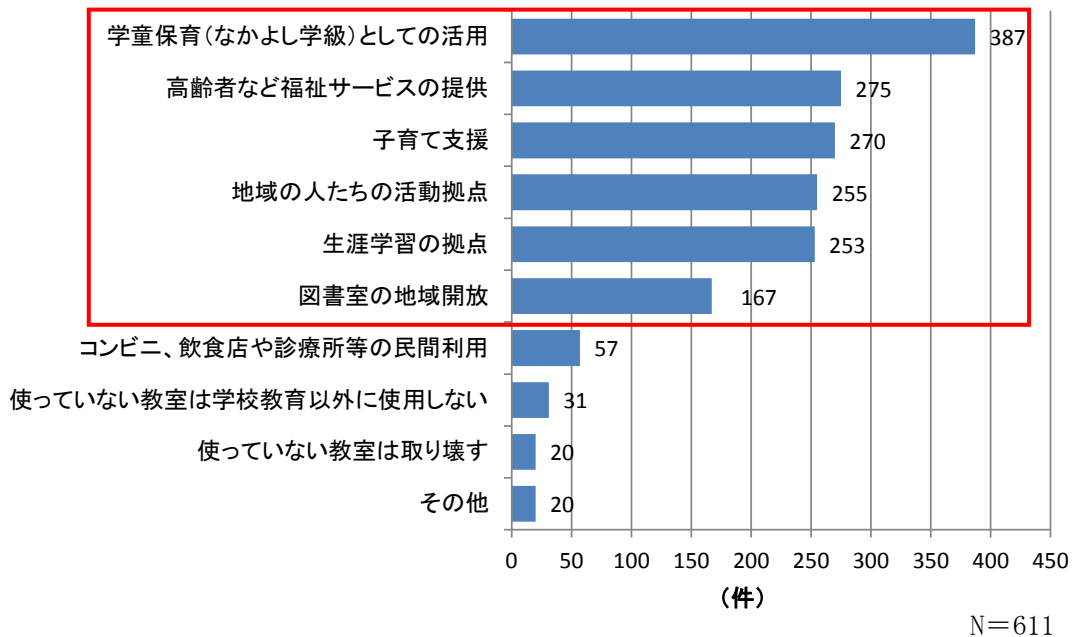


N=608

問8

学校施設（小学校、中学校）で活用できる余裕教室があれば、どのような活用が考えられますか？ <あてはまるものに○印（いくつでも）>

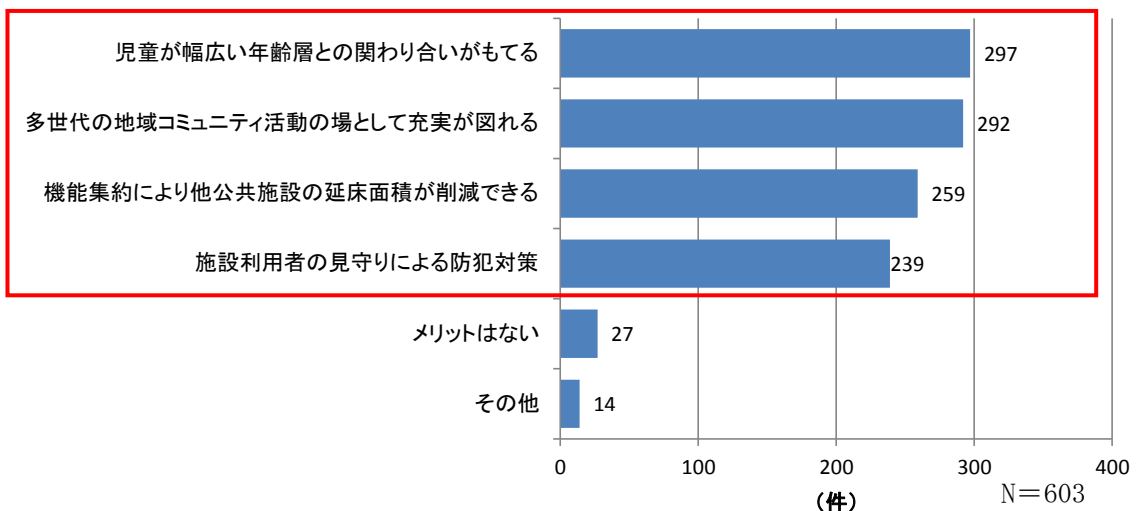
学校施設で活用できる余裕教室の活用方法として、「学童保育（なかよし学級）としての活用」が 387 件と最も多く、次いで「高齢者など福祉サービスの提供」が 275 件、「子育て支援」が 270 件であった。また、「地域の人たちの活動拠点」の 255 件、「生涯学習の拠点」の 253 件、「図書館の地域開放」の 167 件までが、多くの回答を得た選択肢であった。



問9

学校施設の余裕教室を活用した場合のメリット（利点）として何が考えられると思いますか？ <あてはまるものに○印（いくつでも）>

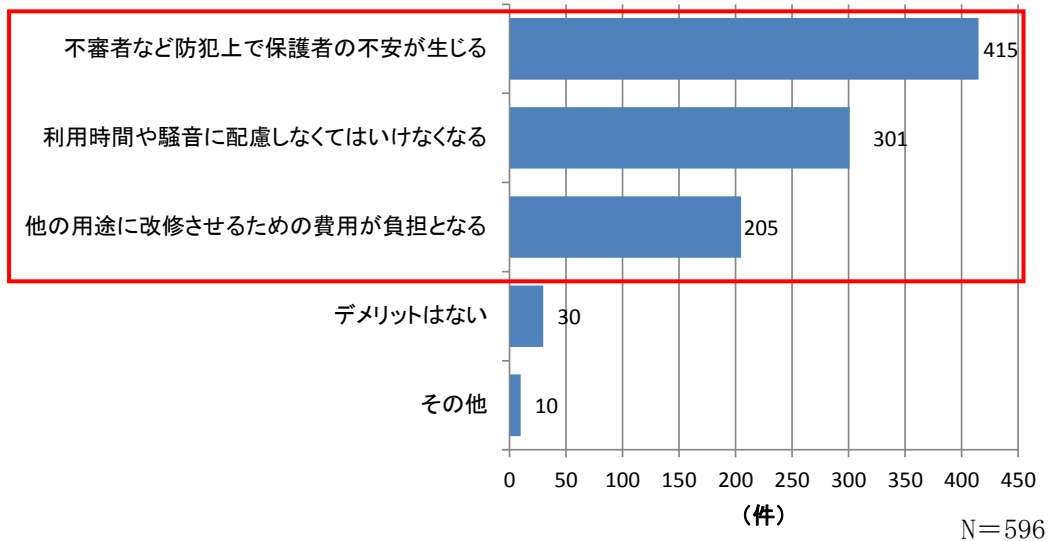
学校施設の余裕教室を活用した場合のメリットとして、「児童が幅広い年齢層との関わり合いがもてる」が 297 件と最も多く、次いで「多世代の地域コミュニティ活動の場として充実が図れる」が 292 件、「機能集約により他公共施設の延床面積が削減できる」が 259 件であった。次の「施設利用者の見守りによる防犯対策」の 239 件までが多くの回答を得た選択肢であった。



問10

学校施設の余裕教室を活用した場合のデメリット（欠点）として何が考えられると思いますか？ <あてはまるものに○印（いくつでも）>

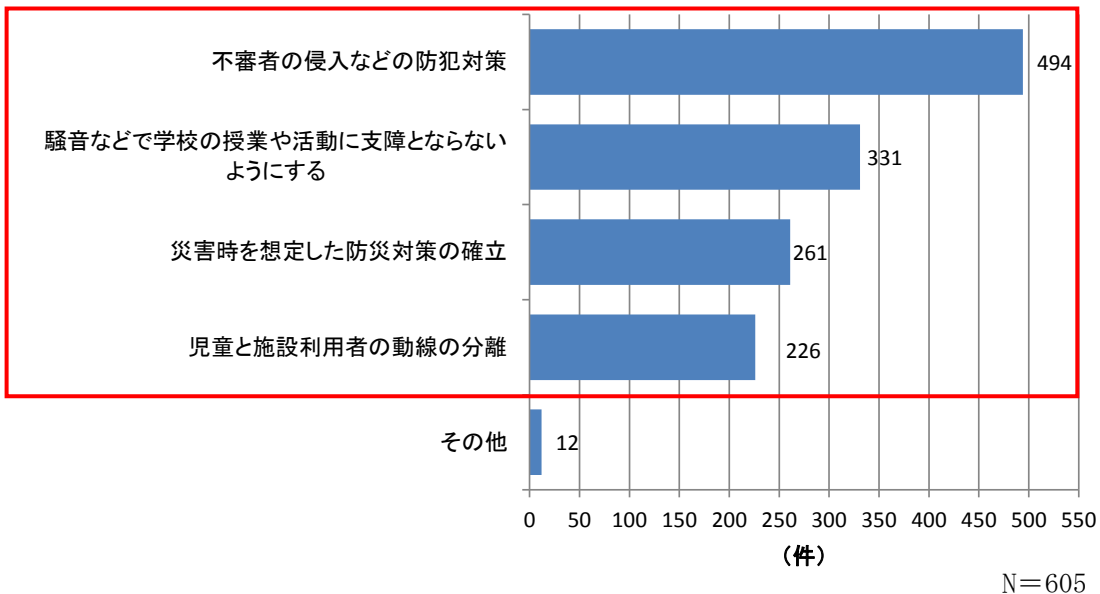
学校施設の余裕教室を活用した場合のデメリットとして、「不審者など防犯上で保護者の不安が生じる」が415件と最も多く、次いで「利用時間や騒音に配慮しなくてはいけなくなる」が301件、「他の用途に改修させるための費用が負担となる」が205件であり、デメリットを指す選択肢に多くの回答があった。



問11

学校施設の余裕教室を活用するときに配慮すべき事項は何だと思いませんか？ <あてはまるものに○印（いくつでも）>

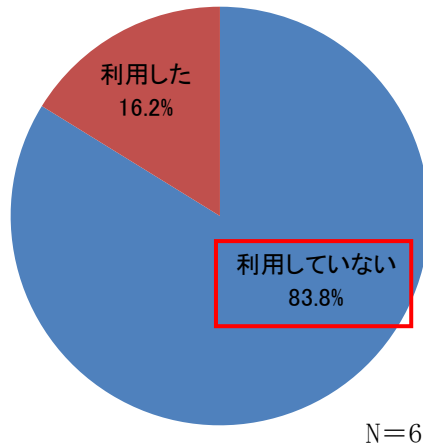
学校施設の余裕教室を活用するときに配慮すべき事項として、「不審者の侵入などの防犯対策」が494件と最も多く、次いで「騒音などで学校の授業や活動に支障とならないようにする」が331件、「災害時を想定した防災対策の確立」が261件であった。次の「児童と施設利用者の動線の分離」が226件の回答を得ており、全ての選択肢に多くの回答があった。



【生涯学習施設の複合化・多機能化について】

問12 あなたは過去1年間に、南・北公民館、勤労青少年ホームを利用しましたか？
 <1つに○印>

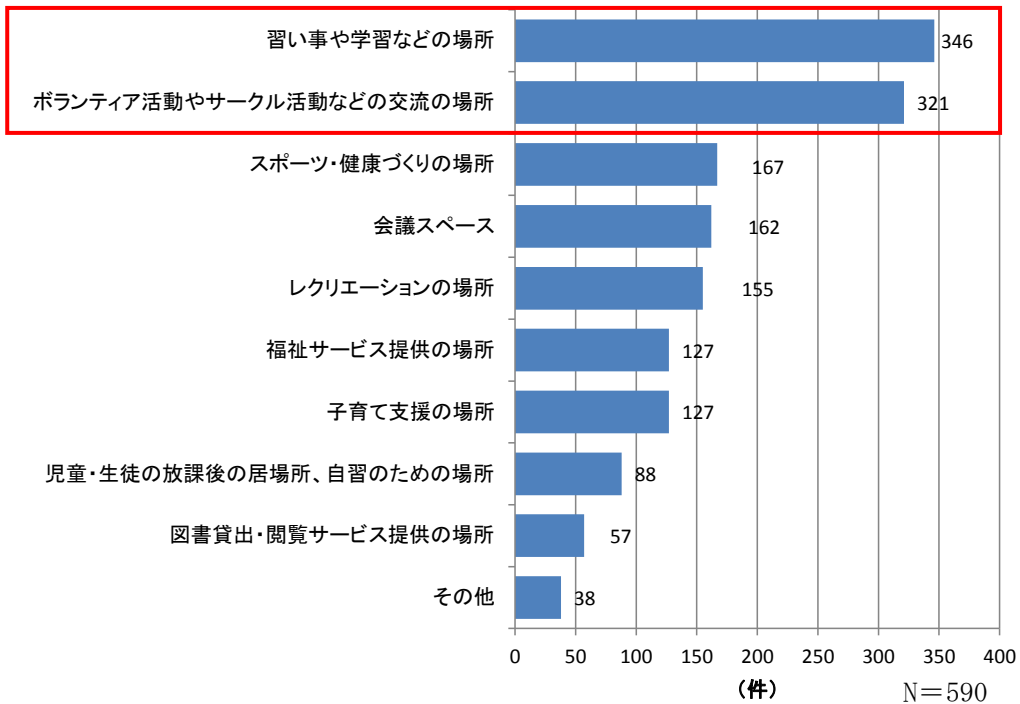
南・北公民館、勤労青少年ホームの利用の有無について「利用していない」と回答した人が83.8%、「利用した」と回答した人が16.2%と「利用していない」と回答した人の割合の方が高い。



問13 「利用した」 →あなたは、南・北公民館、勤労青少年ホームをどのようなことで利用しましたか？
 「利用していない」 →あなたにとって、今ある、南・北公民館、勤労青少年ホームとはどのようなことに利用する施設だと思いますか？
 <あてはまるものに○印（いくつでも）>

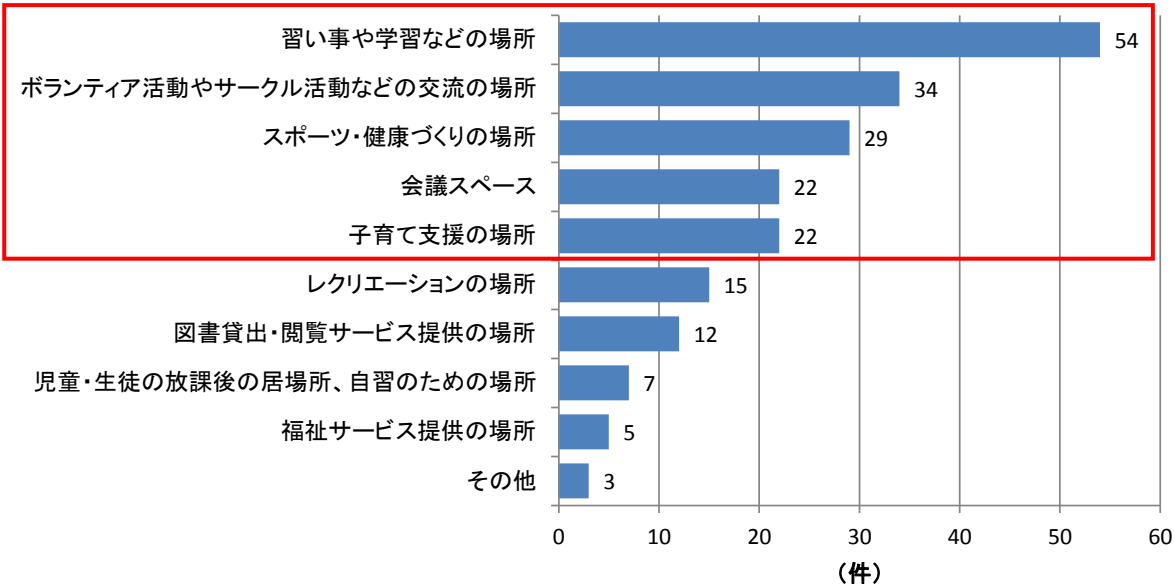
<全体の回答>

南・北公民館、勤労青少年ホームの利用方法については「習い事や学習などの場所」346件、「ボランティア活動やサークル活動などの交流の場所」321件が特に多い回答であった。



<「利用した」と回答した人の回答>

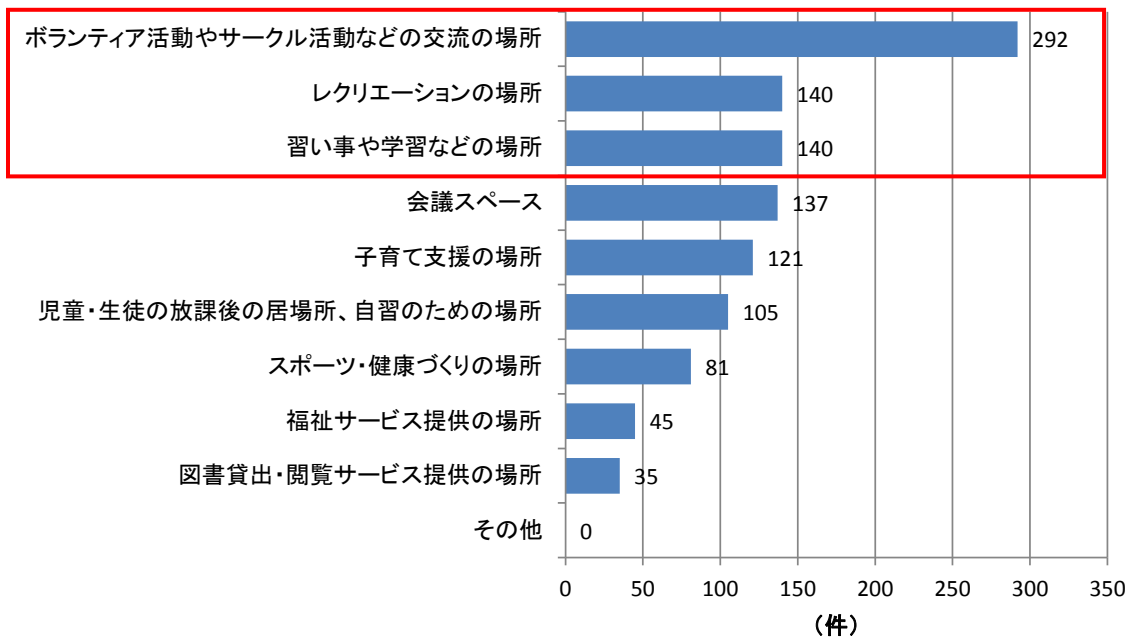
南・北公民館、勤労青少年ホームを「利用した」と回答した人の中でみると南・北公民館、勤労青少年ホームの利用目的は「習い事や学習などの場所」が54件と最も多い。次いで、「ボランティア活動やサークル活動などの交流の場所」が34件、「スポーツ・健康づくりの場所」が29件、「会議スペース」「子育て支援の場所」が22件と差はほぼなく、様々な目的で利用されている。



N=99

<「利用していない」と回答した人の回答>

南・北公民館、勤労青少年ホームを「利用していない」と回答した人の中でみると、南・北公民館、勤労青少年ホームの想定する利用目的は「ボランティア活動やサークル活動などの交流の場所」292件、「レクリエーションの場所」「習い事や学習などの場所」140件が特に多い回答であった。

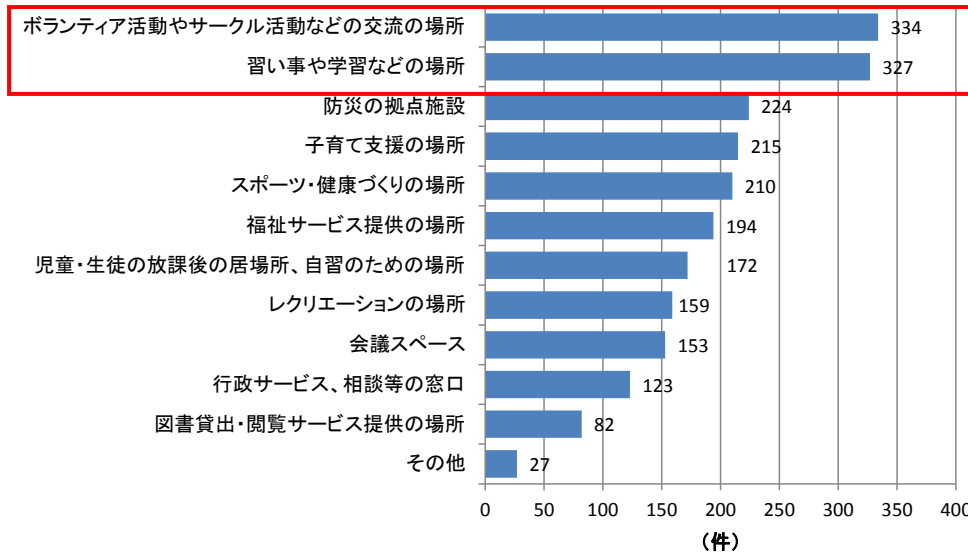


N=488

問14

南・北公民館、勤労青少年ホームの機能として必要だと思うものは何ですか？
 <あてはまるものに○印（いくつでも）>

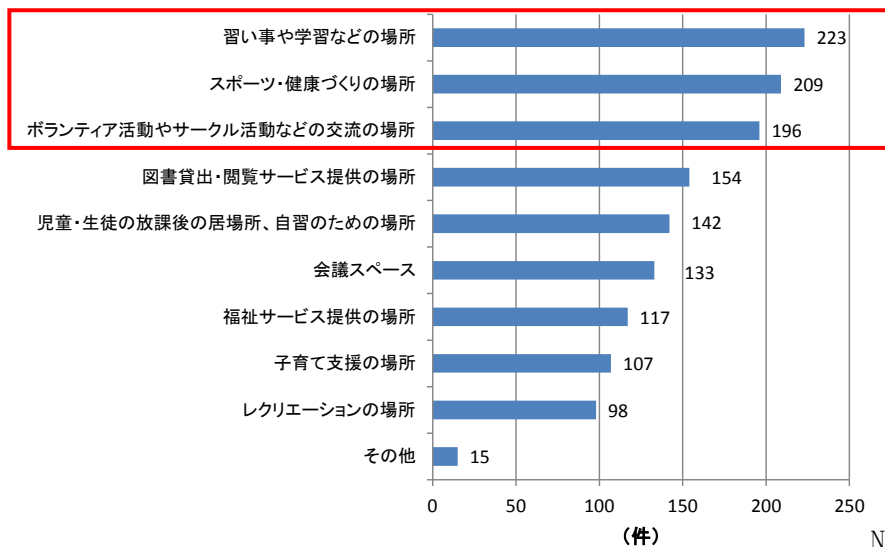
南・北公民館、勤労青少年ホームの機能として必要だと思うものとして、「ボランティア活動やサークル活動などの交流の場所」334件、「習い事や学習などの場所」327件が特に多い回答であった。



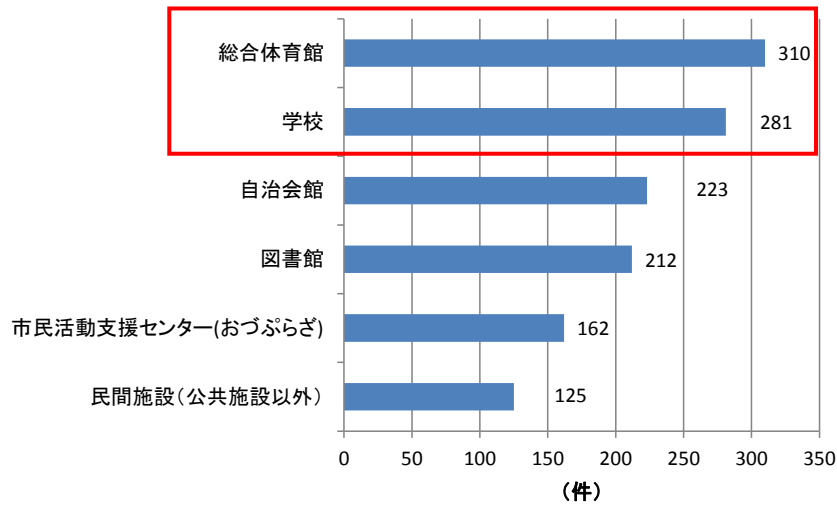
問15

南・北公民館、勤労青少年ホームの機能の中で、他の施設でも利用可能だと思うものは何ですか？また、利用可能と思う他の施設とは何ですか？
 <あてはまるもの3つを選択>

公民館、勤労青少年ホームの機能の中で、他の施設でも利用可能だと思う機能として、「習い事や学習などの場所」が223件と最も多く、次いで「スポーツ・健康づくりの場所」が209件、「ボランティア活動やサークル活動などの交流の場所」が196件であった。その他に「図書貸出・閲覧サービス提供の場所」「児童・生徒の放課後の居場所、自習のための場所」「会議スペース」等にも多くの回答を得た。



公民館、勤労青少年ホームの機能の中で、他の施設でも利用可能だと思う機能として、「総合体育館」が310件と最も多く、次いで「学校」が281件、「自治会館」が223件であった。次の「図書館」の212件までが、多くの回答を得た選択肢であった。

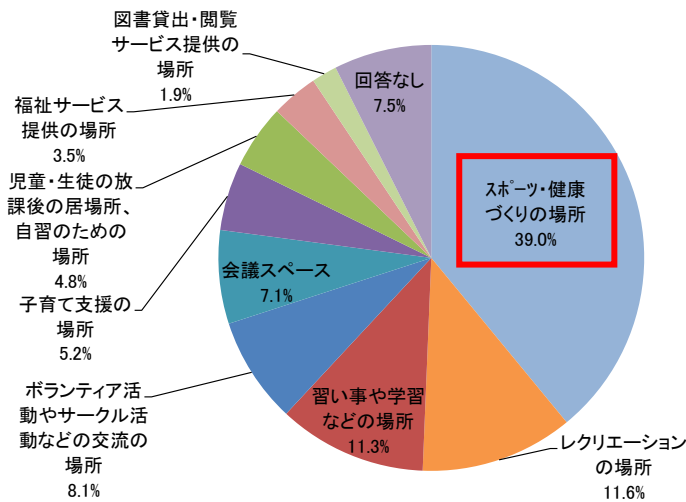


N=499

<「施設名」の上位2項目「総合体育館」と「学校」の「機能」の回答>

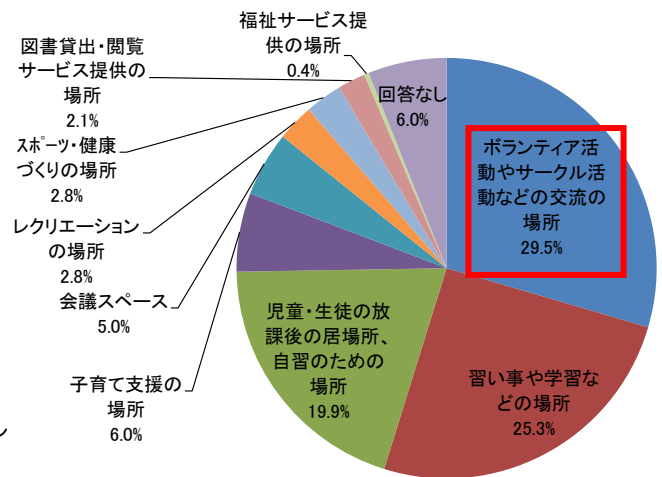
「総合体育館」で利用可能であると思う機能についての回答は「スポーツ・健康づくりの場所」が39.0%と最も高く、「学校」で利用可能であると思う機能については「ボランティア活動やサークル活動などの交流の場所」が29.5%と最も高かった。

「総合体育館」と回答した人の「機能」の回答



N=310

「学校」と回答した人の「機能」の回答



N=281

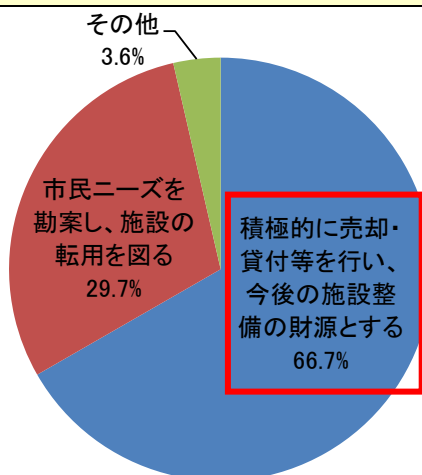
【その他】

問16 南・北公民館、勤労青少年ホームや学校以外で地域の人が集える（コミュニティ活動の拠点となり得る）施設があれば、ご記入ください。

施設名	主な理由	回答数
自治会館	<ul style="list-style-type: none"> 各地区にあり、近くて利用しやすいから 地域住民であれば誰でも利用でき、コミュニケーションの場となるから 人が集える広さがあるから あまり利用されておらず、空いているから 	35
テクスピア	<ul style="list-style-type: none"> 立地が良く、駅から近いため、アクセスが便利だから 会議スペースや大小ホールなどが揃っており、多目的な活動ができる部屋が多く、また、駐車場もあるから 	27
長寿園	<ul style="list-style-type: none"> 各地区にあり、近くて利用しやすいから 人が集える広さがあるから 	16
その他（総合体育館や市民会館など）		68

問17 複合化・多機能化を進めるうえで、不必要となった施設・土地についてどうすれば良いと思いますか？ <1つに〇印>

複合化・多機能化を進めるうえで、不必要となった施設・土地の活用方法については、「積極的に売却・貸付等を行い、今後の施設整備の財源とする」が66.7%と過半数を占める。次いで、「市民ニーズを勘案し、施設の転用を図る」が29.7%であった。



N=553

問18 公共施設の再配置について、ご意見がございましたら自由にご記入ください。

主な意見	回答数
複合化・多機能化の推進	51
アクセス性の向上	20
地域移管の推進	18
不要な施設の廃止	13
市民への取組説明と専門家・市民の意見収集	13
老朽施設の建替え（既存施設の維持）	4
防犯・災害対策の推進	5
近隣市町との供用	2
空き家・空き店舗・廃校の利活用の推進	2
その他（市の施策に対する要望）	41